

2013年11月28日
民間議員 長谷川 閑史

産業競争力会議 第5回医療・介護分科会議題に関する意見

11月28日の第5回医療・介護等分科会における議題に関し、以下の通り意見を申し述べる。

1. 自治体病院等の財務諸表および診療に関する情報の開示

- 医療の質の見える化の取り組みとして、厚生労働省主導で取り組んでいる「医療の質の評価・公表等推進事業」があるが、平成24年度の実施団体は3団体に留まっており、医療分野全体の生産性向上にはとても繋がらない。
- 上記取り組みも推進しつつ、既に蓄積されているDPCデータを開示していただきたい。

2. 介護サービス品質改善

- 介護サービス品質の見える化は急務であり、品質に係る指標の決定には時間をかけることなく、すぐにでも行っていただきたい。
- 米国においては既に介護アウトカムデータ(利用者の機能面の情報、事業者のサービス品質情報(転倒率・褥瘡率等)等)による事業者評価・公開が行われているほか、日本においても要介護認定の一次審査で利用者の機能面等に関するデータの蓄積を行っていることから、これらを品質評価の核としてはどうか。

3. 介護施設の中長期計画策定

- まずは居住系施設に入所すべき待機者数を早急に精査し、いつまでにこれを解消するのかについて設定いただきたい。
- 市町村や都道府県の「介護保険事業計画」、「介護保険事業支援計画」策定の際には、上を踏まえ、20年程度の中長期の居住系施設の必要数と計画を開示すべき。
- 在宅サービスのあり方を含めた中長期の計画策定について、スケジュール感も併せて提示いただきたい。
- なお、それに先んじて介護施設の種類について、その違いや特徴を分かりやすく整理していただきたい。

4. 介護ロボットの開発・普及促進

- 介護ロボットの開発・普及は、高齢者の自立支援や介護をするものの負担軽減の観点から重要である。
- 介護現場のニーズの把握、保険制度上の取り扱い、安全認証のあり方など、厚生労働省と経済産業省、その他関係各省が連携し、開発・普及に向け迅速に取り組んでいただきたい。

以上